

木造聖観音菩薩坐像

所在地 宮城県加美郡加美町城生字裏 城生観音堂

指 定 加美町指定有形文化財 平成 20 年 9 月 26 日

概 要

仏像の形状は像高 67.2cm、一面二目二臂の菩薩像で右足を上に結跏趺坐し、左手に蓮茎を持って通有の髻及び頭部正面に化仏がないものの、形勢及び伝承から聖観音菩薩と認められます。また、材質は寄木造りの木造で頭部、体幹部にカツラ材を用いられ、東北地方の古代・中世彫刻の通例のものであり、構造も前後矧ぎとし頭部を差し込むという本格的な技法のものであることから、中世後半（安土桃山時代）までに造立されたと思われる。

当町においては、仏像の調査や中世以前の仏像の報告例もないことから、この地域の歴史・文化を探るうえで、またとない貴重な存在と認められます。

